

結 (ゆい) 第 33 号

発行 関西ねじ協同組合 広報委員会

〒537-0025 大阪市東成区中道 3-15-16 毎日東ビル TEL06-6974-0531 FAX06-6975-2181
E-MAIL info@kansaineji.com URL <http://www.kansaineji.com>



海外情報委員会ドイツ視察より ノイスヴァインスタイン城

結 第33号(臨時号)を発刊

関西ねじ協同組合では、結の発行を紙媒体から組合ホームページ上での発刊に変更いたしました。今後はウェブを活用し、総会および新年会の報告を中心とした年2回の定期発刊に加えて、タイムリーに組合活動の報告を発信してまいります。会員各位・関係団体各位様には、今後とも変わらぬお引き立てのほど、よろしくお願い申し上げます。

海外情報委員会

タイ視察の報告

委員長 柳原考至
(ロックファスナー(株))

日頃は海外情報委員会の活動に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
今期は 2 か所の視察を計画させていただきました。

第一の視察先であるタイについて、報告させていただきます。

平成 29 年 3 月 16 日から 19 日までタイのバンコクに滞在し、17 日に現地日系企業 3 社を訪問いたしました。



最初の視察先は、熱間鍛造を主力とされるミヤケフォーミング様で、会社説明と工場見学を行いました。同社は 2013 年 3 月に設立し、主にベアリングケースを製造しています。

工場内は現地の風向き等も考えた、吹き抜け構造の建屋となっており、熱間鍛造加工後の高温の製品が排出される場所も風が抜ける構造の為、ほとんど熱さを感じない工場内となっていました。又 QC 等も精力的に活動され、現地の従業員にて製作された各種の QC パネル等も、さまざまな工夫がされていました。



二番目の訪問先はタイ シンワ エコー様で、同じく会社説明と工場見学を行いました。同社は連続ベーキング炉を工程内に組み込んだ、電気亜鉛鍍金を主業務とし、2011 年に設立されたのですが、当初は客先からの要請に応えた形で、タイへと進出されました。

しかし要請された企業様が進出しなかった為、現地で精力的に営業活動され、かなり苦労した後、現地日系企業の仕事を確保したとのことでした。



三番目の訪問先は、キタヤマヒートトリートメント様で、事業内容としては過熱熱処理炉 4 基にて素材熱処理を主業務とされていました。広々としたスペースで、熱処理時の熱さがこもらない等の工夫もされていました。



視察後は、所々でのミニ渋滞を乗り越えてバンコクにもどり、ソンプーンシーフード店にてタイ料理に舌鼓を打ちました。

視察 3 日目は終日自由行動とし、各々が観光、ショッピング又はマッサージ(安いです)等をこなし、翌 19 日に無事、関西国際空港へと帰ってまいりました。

最後となりましたが、当委員会として、参加し楽しくかつ勉強になる様に鋭意努力いたしますので次回視察旅行へのご参加をお待ちしております。

海外情報委員会

ドイツ視察の報告

海外情報委員会
副委員長 松本典丈
(松本ナット工業㈱)

海外情報委員会では 3 月 23 日から 3 月 30 日に海外研修を実施しました。今回の研修はドイツのミュンヘンからスイスのチューリッヒ、フランスのストラスブールを経由して再びドイツのシュトゥットガルトまでバスで移動するヨーロッパ横断の旅。ファスナーショーや自動車関連の工場を視察することで近代化されたドイツの物づくりに触れると同時にスイスやフランスとの国境付近の街を訪れることで日本とは違ったヨーロッパの歴史的な背景を学ぶことができました。



まず初日のミュンヘンでは BMW の工場を訪れました。市内にある工場には大規模な展示場が併設されておりとても華やかな雰囲気の中で最新の BMW 車が展示されているその隣には車を購入された方に引き渡しをふる専用のスペースが設けられていました。工場に入るに際してはカメラの持ち込みは絶対禁止で手荷物はすべてロッカーに預けるという徹底ぶりでした。いざ工場に入ると車体の組み立てライン（プレス成型、溶接、塗装）に関してはロボットによる作業で工程は管理されてはいますが、作業に人が介在することはほとんどありませんでした。エンジンの組み立てラインや車体に部品を組み付けていくラインにはそれぞれ専任の工員が作業を行っていました。（ライン内での作業をするにも 3 か月から最長 3 年ほどの社内研修を受けるそうです。）自動化を進める部分と人の手で行う部分を明確に分けているとのことでした。



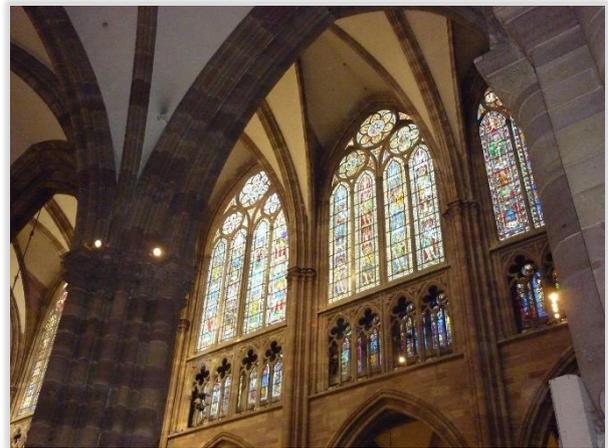
2 日目 3 日目は週末でもあり、移動を兼ねての観光となりました。まずはミュンヘンから南に下りロマンチック街道の終着地に程近いノイスヴァインスタイン城を訪ねました。1868 年からバイエルン国王のルートヴィヒ 2 世がつくったとされる世界で最も有名なお城のひとつです。実物を目の前にすると建物も内装も「すごい」の一語に尽きます。王室の財政を逼迫させたことで幽閉され城の完成を見ずに王は亡くなってしまったそうです。当時の統一前のドイツの政治的背景があつてのことですが、現在このお城は観光資源としてルートヴィヒ 2 世が築城に使った何倍もの収益をドイツにもたらしているそうです。



その日のうちにチューリッヒまで移動し翌日はチューリッヒはら程近いバーゼルで行われている世界的に知られる腕時計の見本市であるバーゼルワールドを見学しました。高級スイス時計を中心に 220 社もの腕時計と宝石のブースが大小並ぶ景色はこれも「すごい！」です。なかでも興味深かったのは有名ブランドだけでなく小さなベンチャー企業もたくさん出店していたことです。職人やデザイナーが個人で立ち上げた小さなブランドが自分たちのつくったものを世に出そうと頑張っていました。スイスメイドというブランドが世界に知れ渡っているからこそこれだけ層の厚いビジネスになるのかなと思いました。以前スイスの時計産業に関するビジネスケースを読んだことがあります。資源の限られた小さい国で精工な時計作りの技術をいかに世界的なブランドに築き上げたか、もう一度読み返してみようと思います。日本の物づくりとビジネスにも参考になりそうです。



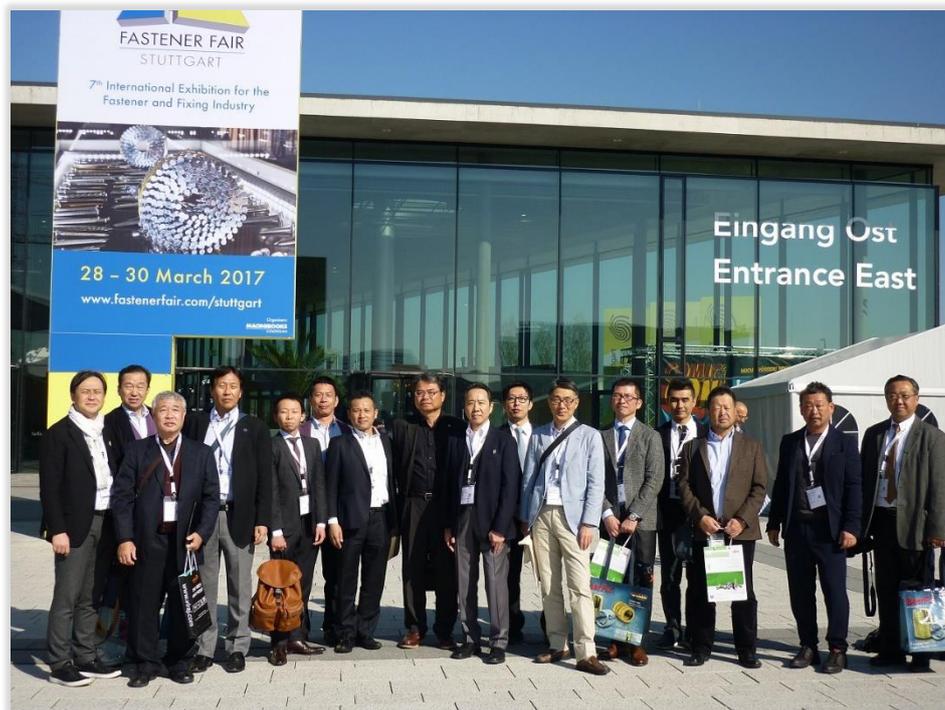
バーゼルを後にして次はフランスアルザス地方の科尔マール、ストラスブールに向かいます。ライン川をはさんでドイツとスイスとフランスの国境をバスで越えていくのは不思議な気分です。ストラスブールの街の発祥は古代ローマ帝国の時代までさかのぼるようで、古くからとても栄えてきた街で現在でも人口 27 万人にして欧州議会がおかれているそうです。このアルザス地方はドイツとの国境に近い町で昔から様々な文化の影響を受けてきた地域だそうです。科尔マールは市街地にも中世の町並みが残っておりまるで映画や絵本の中にあるような街でしばらく滞在したくなるような街でした。ストラスブールは第二次世界大戦のときにも少なからず被害にあったそうですが、年代によって異なった国の建築様式が混在するのですがそれが不思議に溶け合っってひとつの顔としてあるような街でした。特に大戦中はドイツに占領された歴史もあり、日本人としてはそういう街に訪れることでヨーロッパに住む人たちが特有の考えに少し触れたような思いがしました。



4 日目はストラスブールを後にしてシュトゥツガルト郊外にある「Arnold Umformtechnik」という自動車用ねじのメーカーに向かいます。しかし、シュトゥツガルト行きのアウトバーンに乗ってみると大渋滞。昼食を予定していたレストランもキャンセルし渋滞を避けるために下道に抜けひたすら Arnold を目指します。ドライバーさんの激走の甲斐あってなんとか予定の 10 分遅れで到着することが出来ました。Bernd Weidner さんと Lukas Schmieg さんという二人のマネージャーの方に出迎えていただきとても丁寧に対応していただきました。こちらの会社は 1898 年の創立でドイツに 2 か所、中国、フランス、アメリカにも工場を持ち 1132 人の社員と年間 2 億 1200 万ユーロの売り上げ規模があるそうです。現在は Worth (ウルト) という世界的な自動車部品メーカーの傘下でありボッシュ、ダイムラーなど主に車関係のユーザーとの取引が主だそうです。工場内は建屋もまだ新しく、整理整頓が良くされており無駄なものがなくて洗練された印象を受けました。ドイツでは教育制度として子供は 10 歳の時に将来の進路を選択しなければならないそうです。手に職を付けて働くか、高等教育を受けマネージャーや高度な専門知識を必要とする職業を目指すかで 10 歳以降に受ける教育が完全に分かれるそうです。技術職を目指す人たちは職業訓練校を経てマイスターの資格を持つ親方の下で働きながら経験を積みマイスターの資格を目指すそうです。(マイスター制度)



5日目の最終日は午前中にシュトゥットガルトファスナーショウを見学し午後はメルセデスの工場見学でした。ファスナーショウは21,100㎡の会場に900社が出展する大規模なもので地元のドイツは勿論イタリア、トルコ、イギリス、スペイン、オランダ、フランス、アジアからは中国、インド、台湾のほか45カ国からの出店があるそうです。展示されている製品は我々にもなじみのあるものが大半ですが、ファスナー類だけでこれだけの大規模な展示会ができるマーケットの大きさには驚きました。かえって国内のマーケットだけでやっている日本の方が特殊な環境なのかもしれないと感じました。



最後はメルセデス・ベンツの工場を見せていただきました。組み立てラインに関しては、こちらもロボット化が進み洗練された工場という印象で初日に見学した BMW のものと共通するところが多く見られました。しかし、そこは世界で最古の自動車メーカーであるところのオリジナリティーやこだわりが感じられました。工場に併設されているショールームも BMW のものとは違い落ち着いた雰囲気でも最新のモデルも展示されていますが、創業当時の自動車の原型ともいえるモデルも展示されていました。また、工場内での改善活動や工員の方たちへの社内教育に力を入れているとのお話からは世界トップブランドとしての誇りを感じました。



今回の研修旅行も最後まで大きなトラブルもなく充実した内容で終わることが出来ました。参加者の皆さんをはじめ、日本ねじ工業会、関西ねじ協同組合、JTB、工場見学先、その他ご協力いただいた皆様に改めてお礼申し上げます、ありがとうございました。また、これからも海外情報委員会の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

人材開発委員会

平成 28 年度 事業報告

委員長 由良 宜彦
(嘉 亀 鋼 業 株 式 有 限 公 司)

日頃は人材開発委員会の活動に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
当委員会の今年 1 月から 3 月までの事業報告については以下の通りとなります。

2 月 2 日(木) シティプラザ大阪において管理職向け講演会を開催致しました。昼食を挟んだ二部制で、午前中は「知って備える製造物責任～ねじ製造業者として～」と題して、弁護士の菅 聡一郎氏と同じく弁護士の林 尚美氏にご講演頂きました。企業の過失の有無に関わらず製品の欠陥さえ証明できれば企業に賠償責任があるという事で、最悪のケースに備える必要性を学びました。



【左：林 尚美氏 右：菅 聡一郎氏】



【外山 将平氏】

3 月 2 2 日(火)には工場見学会を開催しました。見学先は、当組合員であります阪村産業株式会社様宇治田原工場。33名で訪問させて頂きました。朝から上本町と京都駅に集合した参加者一行は、まずは昼食会場である『花やしき浮舟園』へ向かいました。



【昼食会場前】



【阪村産業(株) 中村社長】



【見学会参加者】

その後、午後 1 時 3 0 分に阪村産業株式会社へ到着。企業概要の説明を聞いた後、6 班に分かれての工場見学となりました。最新鋭の設備と清掃の行き届いた工場内に、参加者の皆さんは熱心に見入っていました。今回の見学会では同業他社も多く参加されていたにも関わらず、快く見学を受け入れて下さった中村社長様に感謝申し上げます。

以上、人材開発委員会では組合員の皆さまのご希望に添えるようなセミナー等を開催しております。何かご要望がございましたら事務局までご連絡頂きましたら対応させていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

交流委員会(会員交流グループ)

第 28 回 親睦ゴルフコンペを開催

会員交流グループリーダー 今井 敏 雄
(株丸菱ナット製作所)

平成 29 年 4 月 5 日(水)に第 28 回のゴルフコンペを、飛鳥カントリー倶楽部にて開催致しました。

期首のお忙しい中 29 名のご参加を頂き、無事コンペを終える事が出来ました。ご参加頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。

今回グロス 88 で優勝された辻本様は、飛鳥カントリー倶楽部のメンバーでコースの隅々まで熟知され、さらには『ハンディキャップにも恵まれた』とご謙遜されておられました。

平成 29 年度より新理事として、ご活躍を期待しております。

また、ベスグロは浜中様の 87 (37 40) でした。

次回は平成 29 年 11 月頃に開催を予定しております、囲碁クラブと合わせて皆様のご参加をお待ちしております。

第28回親睦ゴルフ成績

優勝 辻本 康則	17 位 山川 佳秀
準優勝 木村 文雄	18 位 夏原 和哉
3 位 檜本 隆之	19 位 今井 敏雄
4 位 江浦 善照	20 位 中江 良一
5 位 浜中雷太郎	21 位 松元 収
6 位 田島 祥一	22 位 小林 永典
7 位 高橋 学	23 位 池田 裕之
8 位 上田 健	24 位 檜本 宏志
9 位 西居 厚	25 位 山下 貴嗣
10 位 池田 栄治	26 位 中谷 格
11 位 平石正一郎	27 位 橋本 栄吉
12 位 梅林 豪	28 位 松本 典丈
13 位 坂元 正樹	29 位 大住 貴子
14 位 六車 拓哉	
15 位 木田能風子	
16 位 石田 佳史	



ご参加のみなさま